

鎌ヶ谷総合病院

運営協議会

(令和6年度 第1回会議 会議録)

## 鎌ケ谷総合病院 運営協議会（令和6年度 第1回会議 会議録）

日 時：令和6年12月17日 14時～15時

場 所：鎌ケ谷市総合福祉保健センター 4階 会議室

出席委員：堀隆樹（鎌ケ谷総合病院院長） 加納寛（鎌ケ谷市医師会理事）

皆川学（船橋歯科医師会理事） 杉山宏之（船橋薬剤師会会長）

富田信恵（鎌ケ谷市議会議員） 北村眞一（鎌ケ谷市副市長）

小笠原直樹（鎌ケ谷市健康福祉部長） 滝克洋（市が推薦する市民の方）

山下統悟（市が推薦する市民の方） 渡邊和彦（鎌ケ谷総合病院事務長）

欠席委員：長谷川美穂（千葉県看護協会常任理事）

※（ ）内は就任当時もしくは現行のもの【敬称略】

事務局員：＜鎌ケ谷市＞ 本間健康増進課長、舟波健康増進課主幹、

鎌田健康増進課副主幹、仲村健康増進課予防係長

＜鎌ケ谷総合病院＞谷河事務次長、保坂総務課長補佐

事務局谷河：

本日はお忙しいところ、鎌ケ谷総合病院運営協議会に出席いただきまして、ありがとうございます。私は事務局の鎌ケ谷総合病院事務次長の谷河と申します、よろしく願いいたします。今回、事務局としまして鎌ケ谷市役所様から、健康増進課本間課長、舟波主幹、鎌田副主幹、仲村係長、鎌ケ谷総合病院から総務課長補佐の保坂、わたくし事務次長の谷河が参加しておりますことをご了承ください。

協議会の開催に先立ちまして、協議会の議長の選出を行います。運営協議会設置要綱の第4条2項に『協議会の会長は徳洲会を代表するものから選出する』とあり、また、設置要綱の第5条1項に『協議会の会議は会長が招集し議長となる』とございます。当該設置要綱に基づきまして、鎌ケ谷総合病院の堀院長が協議会の会長として議長就任となります。

では、本日の出席者をご紹介します。鎌ケ谷市医師会理事・加納委員、船橋歯科医師会理事・皆川委員、船橋薬剤師会会長・杉山委員、鎌ケ谷市議会議員・富田委員、鎌ケ谷市副市長・北村委員、鎌ケ谷市健康福祉部長・小笠原委員、市が推薦する市民の方として滝委員、同じく市が推薦する市民の方として山下委員、鎌ケ谷総合病院院長・堀委員、鎌ケ谷総合病院事務長・渡邊委員。

なお、本日千葉県看護協会常任理事・長谷川委員は欠席でございます。それでは堀議長、鎌ケ谷総合病院運営協議会の開会宣言をお願いいたします。

堀 議長：

ただいまから鎌ケ谷総合病院運営協議会を開会いたします。以降の進行は事務局に任せます。よろしく願いします。

事務局谷河：

それでは会議資料の確認をいたします。まず、鎌ケ谷総合病院運営協議会・令和6年度第1回会議要旨、2つ目が鎌ケ谷総合病院運営協議会・委員名簿、続きまして鎌ケ谷総合病院運営協議会・設置要綱、最後に鎌ケ谷総合病院・運営状況、以上4種類となっております。不足しているものがありましたら、お知らせください。

では、続きまして今回の会議の進行について説明いたします。鎌ケ谷総合病院運営協議会は公開の形となります。そのため、会議議事録を作成させていた

だきますので、ご了承願います。本日使用する録音システムについて説明いたします。会議の内容を明瞭に録音するため、発言の際はお1人ずつ目の前のマイクに向かってお願いします。発言される場合は、マイクの手元にございますボタンを押すと赤いランプが点灯しますので、赤いランプの点灯を確認していただき、発言をお願いします。発言を終了される場合は、もう一度ボタンを押して赤いランプの消灯を確認してください。

それでは、会議録の署名人の選任に移ります。堀議長、進行をお願いします。

堀 議長：

それでは、本協議会の会議録署名人は、山下委員及び小笠原委員にお願いしたいと思ひます。ご異議ありませんでしょうか？（会場から異議なしの声）

ありがとうございます。山下委員、小笠原委員よろしくお願ひします。

それでは本日の議題の審議に移らせていただきます。鎌ヶ谷総合病院は地域の皆様に支えられまして17年目を迎えました。その間いろいろなことがありましたが何とかここまでやってこられたものと思ひます。重ね重ね地域の皆様に感謝申し上げます。それでは渡邊委員、鎌ヶ谷総合病院の運営状況について説明をお願いします。

渡邊委員：

鎌ヶ谷総合病院事務長の渡邊です。よろしくお願ひいたします。それでは私から説明いたします。お手元にございます鎌ヶ谷総合病院運営協議会資料をご覧ください。全体の概略ですが、2018年度から今年度までの7年間の外来と入院の患者数の推移を記載しております。まず平均外来患者数です。新型コロナが全盛期の2020年度は平均525人とやや減少が見られましたが、現在では、概ね600人台まで回復しております。次に平均入院患者数です。新型コロナが全盛期の2020年度に平均275人まで減少が見られましたが、現在は新入院患者の増加に伴ってコロナ前の2018年度の291人を大きく上回り、昨年度は平均305人、今年度は平均307人とかなりの増加傾向を示しております。続きまして新入院患者数の推移を記載しております。特に救急からの新入院数ですが2019年度頃は月間平均150人前後であったものが、特に今年度に入りまして10月までの速報値ではありますが、月間平均258人と大きく受け入れ患者数をふやしております。続きまして鎌ヶ谷市消防が取り扱った救急患者数のうち、どれぐらいが鎌ヶ谷総合病院に運ばれているかの資料です。2020年は全体の47.8%と50%を下回っておりましたが、2021年からは50%を超え、今年は10ヶ月間の実績ですが52.2%となっております。なおグラフにはございませんが、鎌ヶ谷市消防が取扱った救急患者数のうち、鎌ヶ谷市内の病院へどれぐらい運ばれているかと申しますと、今年の実績数値では、先ほど述べました、当院が52.2%、鎌ヶ谷市内の他の病院が4.8%の合計57%となり、残りの43%が鎌ヶ谷市以外の病院へ搬送されております。当院は鎌ヶ谷市内の病院での受け入れ率を現在の50%後半から60%または70%台へと引き上げていくのが使命だと考えております。次の資料は他の医療機関との連携を示す資料です。近隣のクリニック様からのご依頼でMRIを撮影した件数の推移を記載しており、一定の数を保っております。私からは以上になります。

堀 議長：

渡邊委員、ありがとうございます。それではただいまの説明につき、ご質問等ございませんか？

北村委員：  
はい（挙手される）

堀 議長：  
北村委員、どうぞ。

北村委員：  
いくつか教えてください。まず資料で救急からの新入院というのが今年度かなり増えておりますが、それはどのような背景があるのでしょうか？

堀 議長：  
私から回答します。救急からの新入院ですが、基本的に救急車で来られた患者さんは、全員の方に入院をお勧めしています。体動困難な患者さんや整形外科の圧迫骨折等につきましては、今までは帰宅していただく事もありましたが、ご自宅に帰られた後、急変したという事例もあり、最近では救急車で来られた全患者さんに入院を勧めております。

北村委員：  
市役所の中ではインフルエンザで休んでいる職員が激増している状況です。鎌ヶ谷総合病院の患者さんで、インフルエンザ及びコロナの患者さんは増加傾向にあるのでしょうか。教えていただけますか？

堀 議長：  
私から回答します。現在、明らかにインフルエンザの患者さんは増えていきます。少し前までは、コロナの方が多かったのですが、コロナに関しては、今は1日に1人いるかないかぐらいです。インフルエンザは、数人ずつ発生しており、肺炎等併発している患者さんも発生しています。発熱している場合、今はコロナとインフルエンザの両方の検査を行います。ほとんどはインフルエンザが陽性となっています。他にありませんでしょうか？

加納委員：  
はい（挙手される）

堀 議長：  
加納委員どうぞ。

加納委員：  
資料について、渡邊委員が説明された、平均患者数というのは1日の人数というとりえ方でよろしいでしょうか？

渡邊委員：  
はい、私からお答えいたします。土曜、日曜も含めて1年間ならした時の、1日の人数という事です。

加納委員：  
別件ですが、最近麻疹の話題が少し出てきていると思いますが、鎌ヶ谷総合病院では、何か対策はされていますか？

堀 議長：  
コロナが全盛期の頃に、コロナの患者さん用に特別診察室という部屋を設けましたが、麻疹の場合もその特別診察室を充てる事にしています。この間も、船橋在住の方が麻疹に感染されている事がわかりましたが、その場合も特別診察室を準備していました。

加納委員：  
麻疹については、職員の方は全員抗体値を調べられたのですか？

堀 議長：

はい、全員検査しました。そして、抗体値が一定以下の職員にはワクチンを接種しました。

加納委員：

麻疹ですが、何%程度の職員の方が一定の抗体値に達してなかったですか？  
大体で結構なので、ちょっと参考になるとと思いますので。

渡邊委員：

一定の抗体値を有していない職員に個別で案内したものですから、今データを持ち合わせておりません。

堀 議長：

他にありませんでしょうか。大丈夫ですか。それでは、鎌ヶ谷総合病院の運営状況につきましては、以上で終了させていただきます。

続きまして、鎌ヶ谷総合病院に対する要望等に移らせていただきます。委員の皆さんからご意見がございましたら、挙手をお願い致します。

山下委員：

はい（挙手される）

堀 議長：

山下委員、どうぞ。

山下委員：

昨年も質問しましたが『患者様の声』という苦情もお褒めの意見も取り纏めているものがあると思いますが、どのような状況になっていますか？

渡邊委員：

私からお答えいたします。2024年の1月から11月までに寄せられた『患者様の声』ですが、総数が159件、その中で最も多かったのが職員の対応についてのご意見が39件、続いてお礼が34件。また、ご要望も34件と同数で続いております。職員の対応というのは、職員の患者さんに対する言葉遣い及び態度に対するご指摘です。また、待ち時間等が長いにもかかわらず、適切に受診時間を案内してくれない等のご指摘もあります。特に待ち時間に関しては、誠に申し訳なく思いますが、救急車等で重症な患者さんが来られた場合、その専門分野の医師が呼ばれます。仮にその医師がその日の外来担当であった場合は、外来の待ち時間が長くなるということが時として起こります。

山下委員：

去年も申し上げたのですが、待ち時間をどう過ごしていただくかは病院側の問題だと思います。慶應大学付属病院や順天堂大学付属病院等は、ラインで登録制にして、どこに行っても大丈夫なようにしてあります。それで10分ぐらい前になれば連絡が来るというシステムになっています。待ち時間が全くわからないのと、待ち時間が大体わかるのでは、サービスが違うと思います。機会があればそのような体制を取って頂きたいと思います。顧客満足（CS）は色々あると思いますが、心理的に待ち時間を何とかクリアできる方法は無いのかと感じます。患者さんの心理としては、実際の時間より長く感じる傾向にあります。1時間以内、30分以内、10分以内とか、これって大事ですよ。SNS等を見ますと病院の評判はこればかりです。良い病院では待ち時間が長い事は仕方ない事ですが、待ち時間の状況がわかるように何とかできないかという事を、私の意見として申し上げておきます。

渡邊委員：

はい、貴重なご意見ありがとうございました。今後の参考にさせていただきたいと思います。

北村委員：

はい（挙手される）

堀 議長：

北村委員どうぞ。

北村委員：

山下委員からご質問がありました病院へのご意見の件ですが、鎌ヶ谷市役所には令和6年度は今のところ6件のご意見がきております。以前は、結構な数がきていた時期もありましたが、最近はかなり少なくなっています。先ほど渡邊委員から説明がありました、1日当たりの平均外来患者数が約600人としみますと、それを365倍した約22万人が年間の外来患者数になると思いますが、そのうちのご意見数が159件と言いますとこれは病院からみると多いと感じるのか、少ないと感じるのか、どちらですか？

渡邊委員

はい、私からお答えいたします。以前多かった待ち時間に関するご意見は、待ち時間のモニター表示を2年程前に変更したことにより、最近は少なくなってきたと認識しております。以前は待ち時間モニターにこれから呼ばれる患者さんの番号を10名分表示しておりましたが今では3名にしております。3人にしたのは、この3人の中に入った場合は20分から30分程度で呼ばれるという認識をしていただくために、そのように変更しました。その事からご自身の番号が表示されていない場合は、おトイレに行かれたりとか、ちょっと外出したりという事が大丈夫との情報を伝えております。

堀 議長

他にございますか？

滝 委員：

はい（挙手される）

堀 議長：

滝委員どうぞ。

滝 委員：

要望という事ではないですが、今日もたくさん資料を頂きました。病院にはこのような広報誌や新聞がこちらこちらに沢山あります。私の要望は、高齢者の方（ネットに繋がっていない方及びその年代）に、今の新しい先進医療や新しい治療への要望の仕方等の資料を、例えばコミュニティセンター等においていただく事は可能でしょうか。やはり興味を持っていただかなければいけないと思います。この手術は痛いからやめておこう等あると思います。実際は先進医療でもっと楽に簡単に手術ができるという状況になってきている病気もありますから、ぜひそういうことを伝えていただきたいと思います。私も病院に行くときは、いつも楽しみにしています。ぜひその様な事を広める方策といますか、広める仕組みを作っていただきたいと思います。

北村委員：

コミュニティセンター及び公民館は公共施設なので、私の方からお答えします。ご指摘はもつともだだと思います。鎌ヶ谷総合病院様及び鎌ヶ谷市医師会様からその様なご依頼があれば、公共施設に来られた誰もがそういった医療関係のチラシ、パンフレット等を入手できるように対応できればと思います。

堀 議長：

北村委員、有難うございます。良い話ですね。  
他にございますか？

山下委員：

はい（挙手される）

堀 議長：

山下委員どうぞ。

山下委員：

高齢者の話題がでたので、各論になりますが話をさせていただきます。鎌ヶ谷総合病院の評判は、昔に比べてよくなっていると感じます。ただ、耳鼻科の体制については、少し弱いのではないかという意見を聞きます。以前、耳鼻科の部長先生に手術をしていただいた知人が、良くなって経過観察という事になり、新しい若い先生に担当が変わったのですが、その若い先生も今回別の所に行かれる事となり、違う病院を紹介しますので移ってくださいと言われたとのこと。ところが、紹介された病院へ行ったところ、その病院では『どうしてここまで来たのですか』と聞かれたようです。経過観察の簡単ともいえる状況で、なぜここまで来たのか疑問を持たれたようです。そのような経緯があり、その知人は、鎌ヶ谷総合病院の元の耳鼻科の部長先生に日程をあわせて受診していると話しておりました。鎌ヶ谷総合病院の耳鼻科では、その様に病院を移ることを勧めなければならない程、先生の状況が逼迫しているのか知りたいと思います。

堀 議長：

私から説明いたします。元の耳鼻科の部長先生は年齢の影響もあり本年度常勤から非常勤になりました。また、もう一方の若い先生ですが、開業されるため退職予定となっております。元の耳鼻科の部長先生は、頭頸部外科という診療科に属しており、大きな手術を主に担当される医師でした。大きな手術を担当する頭頸部外科は、悪性の腫瘍等を手術で切除する診療科で、最近はなりたいと希望する若手医師がめっきり減少しております。まずは外来からになるとは思いますが、4月から来ていただける医師をリクルートしている最中です。また、元の耳鼻科の部長先生も週に3日間ほど来てくれる事になっています。ただ、やはりご年齢の影響もあり結構厳しいようですが、頑張ってくださいますのでよろしく願いいたします。

山下委員：

よくわかりました。それで、そのような症状の場合、やはり転院して専門の先生の診察を受けた方が良いのですね。

堀 議長：

患者さんの状況がわからないのですが、若い先生は自身の外来担当枠が結構埋まっておりますので、他病院へ紹介したのではないかと思います。若い先生は、病状が落ち着いている患者さんは元の耳鼻科の部長先生に引継いでいく予定だと思います。

他に、要望等に関するご意見はございませんか？

富田委員：

はい（挙手される）

堀 議長：

富田委員どうぞ。

富田委員：

こんにちは、市議会議員の富田です。初めに鎌ケ谷総合病院の皆様には、地域医療を担う中核病院として日頃より市民のために質の高い診療をご提供いただきまして、心より御礼申し上げます。当議会報告で、令和6年4月に千葉県保健医療計画に基づく病床配分として県と調整の結果、鎌ケ谷総合病院では、急性期病床が40床、また回復期病床が49床、合計89床が増床されると伺っております。そのためには、急性期から回復期、またリハビリテーションや介護保険と一連のサービスを総合的に確保するため、この医療需要の幅の増加や医療提供の体制を支える人材の不足など、課題も多いかと思われませんが、今後も市民の命と健康を守る医療体制の充実をよろしくお願い申し上げます。私からは最初に、昨年要望させていただきました2点について確認させていただきたいと思います。

まずは1点目、従来より市民から要望の多い小児科診療の充実と、産婦人科など、市との協定を満たしていない部分について、継続してご審議いただいている現在の状況をお聞かせください。

次に2点目、子宮頸癌予防ワクチン、HPVワクチン接種の積極的勧奨が再開し、鎌ケ谷総合病院様にもHPVワクチン接種医療機関としてご協力をいただいておりますが、キャッチアップ接種の期間が1年延長になるなど接種が思うように進んでいない状況にあります。HPVワクチンについて正しい情報を知ることが子宮頸癌予防に繋がるとして、私も議会で積極的な接種勧奨を推進しております。昨年、子宮頸癌予防等の医療講座の実施を要望させていただきましたが、その後、実施のご予定等ありましたらお聞かせ願います。

渡邊委員：

はい、それでは私からお答えします。まず小児科医療の充実に関しましては、現在常勤医師3名で対応しております。月間受診者数は、2020年度の平均241人を底としまして、2021年度は268人、2022年度は449人、2023年度は582人、今年度は468人と右肩上がりの実績を示しております。産婦人科に関しましては、非常勤の医師になりますが、外来部門は月曜日から金曜日まで対応しております。引き続き、常勤の医師のリクルート活動を進めて参りたいと思っております。続きまして2点目のご質問にありました子宮頸癌ワクチンに関するのですが、当院での通常の接種は7名の実績、子宮頸癌ワクチンの接種にブランクがあった世代に実施するキャッチアップは、40名の実績となっております。なお、子宮頸癌ワクチンの接種促進の啓発に繋がる医療講演の開催は、常勤の婦人科医師からの説明が重要である事から、現在実施はできておりません。ただし常勤の婦人科医師のリクルートも引き続き務めており、ワクチン接種に関しても継続して実施して参りたいと思っております。

富田委員：

ありがとうございます。昨年も小児科医療につきましては小児科医師が3人での体制というのは伺っております。2022年度から月間の診療実績の数がすごく多くなっていますが、そのあたりから3人体制になったということですか？

渡邊委員：

昨年度に、小児科医師が3人に増え、外来の受診者数も増加しております。

富田委員：

非常に大変な受診者数だと思いますので、先生方にはくれぐれもよろしくお伝えください。最後に、コロナ前の報道でしたが、北海道日本ハムファイターズの2軍の本拠地があるファイターズ鎌ヶ谷スタジアムで、令和元年に開催された鎌スタ健康祭、これが過去最高の来場者数を記録したそうですね。これは楽しみながら健康に関する知識を深め、将来を担う子供たちが医療の実際に触れる機会を作ることが目的のイベントでした。腹腔鏡手術デバイスの操作実験、実際に縫合を行う手術体験など15の体験ブースがあったとのことで、大人の私もわくわくするようなイベントでした。このような体験は子供たちにとってどれほどプラスの作用があるか計り知れないと思います。近年、未来を担う子供たちの豊かな学びや成長を支えるために、地域と学校がパートナーとして連携協働することが重要と言われおり、こうした機会を学校や市主催のイベントでぜひ推進して参りたいと思っております。その際には、ぜひご協力をいただけるようお願いいたします。以上です。

堀 議長：

ありがとうございます。  
他にございますか？

北村委員：

はい（挙手される）

堀 議長：

北村委員どうぞ。

北村委員：

議会代表の富田議員からも、鎌ヶ谷総合病院に対するお礼のお話がありましたが、私どもとしましては平成19年9月1日に開院以来、間もなく17年あまりになりますが、地域医療を担う中核病院としての役割を担っていただいていることに心から感謝申し上げます。この数年間は鎌ヶ谷市医師会の皆さんともども、新型コロナウイルス感染症対応にもご尽力いただき本当にありがとうございました。最初に国内で新型コロナが確認されたのが、令和2年1月15日だったと思いますが、間もなく5年になろうとしています。5類になったけれども、インフルエンザ等とともに感染者数も増加しつつあります。鎌ヶ谷総合病院の皆様には、その対応や各種の予防接種等につきましても、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。また、救急の受け入れ、或いは災害時の医療対応、こちらについても人の連携が定着してきておりますので、市民の皆さんの安全安心な生活のためにも引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。次に市からの要望を確認という意味で少しお話をさせていただきます。平成17年に締結した協定書の履行について何点か確認させてください。先ほどの富田議員のご質問にもありましたが、小児救急について小児科医師3人体制で飛躍的に受診されるお子様も増えてきている事は大変ありがたいです。ただ、協定上は、24時間365日救急対応可能というところが協定の約束事項になっております。これを実現するには、以前小児科医が10数人必要だというようなお話があつて、現在の状況の中では大変厳しいというのは承知しておりますが、これについてはどのように考えておられますか？

堀 議長：

私から回答いたします。現在、若手医師が希望する診療科目に偏りがあり、特に小児科、産婦人科、外科を希望する医師が極端に少なくなっています。医師の絶対数が不足している診療科は、地域としても病院の中で集約化を図らなければならず、当院におきましては小児科の医師は3名在籍していますが、やはり少し重症の入院患者さんは主に松戸市立医療センターに送っているのが現状です。地方に比べて当地は首都圏に属しており、まだましな方ですが、それでも先ほど述べました診療科の医師は不足しており、今回の働き方改革の影響をまともに受けると、ますます医師不足が顕著になってまいります。24時間365日体制を築くためリクルート活動を積極的に行っておりますが、現状ではかなり厳しいと考えております。

北村委員：

確かに、そもそも小児科医が不足しており対応が非常に厳しいというのは理解できますが、鎌ヶ谷市としましては24時間365日を前提に来ていただいた状況もありますので、この件につきましては極力充足して頂くという姿勢は必ずお願いできたらと思います。次に、女性専用外来、これについての女性医師等の配置等につきましてはどのようにお考えでしょうか？

渡邊委員：

はい、私からお答えいたします。産婦人科は週5日間外来を行い、そのうち、4日間女性医師が診察を担当しており、女性特有の疾患に対応しております。

北村委員：

ありがとうございます。つづいて病後児保育につきましてはご協力いただき大変助かっています。ただ、病児保育、現に病気中のお子様の保育については、現在他の病院で対応している状況にありますが、鎌ヶ谷総合病院さんとしては、どのように考えておられるか、聞かせていただきたいと思います。

渡邊委員：

はい、お答えいたします。来年度は少し難しいと考えておりますが、再来年度の受け入れを目指し、小児科の先生とどのような疾患であれば受け入れ可能かということ、現在、相談・検討中です。

北村委員：

ありがとうございます。鎌ヶ谷市におきましては昨年新鎌ヶ谷駅の近くに130戸程のマンションができました。その中には40人超の未就学児が含まれていました。今回、新鎌ヶ谷駅のすぐ南側に190戸程のマンションが建設中です。そのマンションにも、多くのお子様が入居されると思います。そのため、この地域においては、病児保育及び病後児保育両方とも大変需要が高いと考えておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、3点目について質問します。協定の中では、循環器科、心臓血管外科、脳神経外科について、順次その機能を拡大し、三次救急医療と同等の体制に移行するとされておりますが、このあたりについてはいかがでしょうか？

渡邊委員：

はい、私からお答えいたします。現在、循環器科3名、心臓血管外科2名、脳神経外科及び脳血管内治療科4名、消化器内科4名の常勤医師の体制が整っております。大きな交通事故、重篤な心疾患や脳疾患等で3次救急を必要とする患者さん以外の疾患に関して3次救急とほぼ同等の2.5次救急を受け持っており、地域住民の方々へ高度な医療を提供すべく、一步一步着実に進んでいるという状況でございます。

北村委員：

順次拡大されているようで安心しました。これからも引き続きよろしくお願  
いしたいと思います。加えてもう1点、富田委員の方から、89床の増床という  
お話がありましたが、今の状況はいかがでしょうか？

渡邊委員：

はい、私からお答えいたします。令和7年12月までの着工条件ということ  
がございますので、そこへ向けて89床の増床の図面を作成中でございます。  
8月に行われました地域医療構想会議にて、回復期として承認された89床のう  
ち40床は急性期への区分変更が認められましたので、現在は回復期49床と急  
性期40床の合計89床として、図面を作成中でございます。

北村委員：

はい、順調に進んでいるようで、よかったです。その他、増床以外で施設整  
備の計画があれば教えていただけますか。

渡邊委員：

はい、現在は増床に向けて全力を注いでおりますので、その他の設備投資等  
に関して計画はございません。

堀 議長：

他にございませんでしょうか？

加納委員：

はい（挙手される）

堀 議長：

加納委員どうぞ。

加納委員：

はい、北村委員から話があったように、鎌ヶ谷総合病院は循環器科及び脳神  
経外科の受入体制に関して、私のクリニックから救急搬送として依頼したケー  
スにおいてもまず断られることがなく大変感謝しています。最近、特によくや  
ってくださっているのではないかと実感しております。今の救急外来の医師の  
体制は、内科担当・外科担当、及び夜間担当等、どのような体制でやられてい  
るのでしょうか？

堀 議長：

医師は2人体制で、内科1人、外科1人という体制を取っています。ただ外  
科の場合、泌尿器科等の医師もいるため、外科系の全てが網羅できているわけ  
ではありません。循環器科及び脳神経外科等につきましては、専門の医師に画  
像診断システムを通して画像を送り、迅速にまた的確に診断していただける体  
制を構築しております。

加納委員：

ありがとうございます。また、働き方改革が本年度から始まっていますが、  
そういう影響というのは、先生方の立場として実感されておられますか？

堀 議長：

鎌ヶ谷総合病院は比較的ドクターの数も多く、通常の診療及び救急医療に関  
して、働き方改革の影響は特に受けていないと認識しております。

他にありませんでしょうか？

富田委員：

はい（挙手される）

堀 議長：  
富田委員どうぞ。

富田委員：  
先の資料で、救急患者数の資料をいただきました。ちまたでは必要性がないのに救急車を利用するケースが増えてきており、自治体によっては本当に救急の様相を呈さない場合においては、実費を徴収するなどというニュースもあります。実際、鎌ヶ谷総合病院さんの救急の受け入れの中において、これは救急車ではなくてもよかったと思える様な受け入れというのはあるのでしょうか？

堀 議長：  
はい、私からお答えいたします。当院では、あまり多くはないと思います。たしかに軽い眩暈や熱が出た等もありますが、実際、若い人達はどのように良いかわからず救急車を呼んでしまうケースもあります。鎌ヶ谷総合病院の場合、ウォークイン（救急車以外で救急外来に来院）の救急も受け付けていますが、ほとんどの方はやはり救急車が必要だと感じています。  
他にございませんでしょうか？

滝 委員：  
はい（挙手される）

堀 議長：  
滝委員どうぞ。

滝 委員：  
オリンピックで大活躍された徳洲会の体操クラブですが、私は目の前で見た事が無いのでぜひ見てみたいと思います。オリンピック選手のダイナミックな体操をみれば皆さん驚かれると思います。現在、鎌ヶ谷市の体育館も改修中で、暫くすると完成します。その完成式に徳洲会の体操クラブの選手、特に金メダリストの躍動する姿を見たいと思います。いかがなものでしょうか？

堀 議長：  
はい、彼らのスケジュールがとてもタイトであり極めて難しいです。選手が無理ならせめてコーチ等でも良いのでとの話もあるようですが、コーチは選手の体調管理もしているため、なかなか困難との事でした。  
他にありませんか？  
それでは病院に対する要望はこれで終わりたいと思います。  
最後にその他の議題に関して何かございますか？

それでは以上をもちまして、鎌ヶ谷総合病院運営協議会を終了いたします。  
本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。